

特集：「未来」は、自分たちの手で

今の子どもたちは一生の殆どが21世紀です。現状を悲観せず、責任ある地球市民として育つために、大人には何ができるでしょうか…「現在の行動や意志が未来の社会に影響を与える、だからこそ自分たちにも未来に影響を与える力がある」をどう実感するかが今回のテーマです。

事例 1：

未来について知りたいこと

ねらい：・未来について知りたいことを質問の形にし、全員の関心・興味を明らかにする。
・未来について主体的に考える。
・未来に対する考え方やイメージの多様性に気づく。

準備すること：調べるのに必要な本。図書室（館）が利用できるようにしておく

展開：

- 1 〈各自で〉未来について知りたいことを5つ、質問の形で書き出す。「どんなことでもいいよ。自分自身のこと、学校のこと、みんなの住んでいる町や近所のこと、世界の出来事でも。」
- 2 〈グループで〉5～6人一組になり、グループ内でそれぞれの質問リストを見せ合って、内容の似た質問を探し、人数の多かった質問を調べる。

「みんなが共通して知りたいと思ったことはどんなことかな？ 質問に、あげる人の多かった順に1～10位まで番号をつけてトップテンを決めよう」（トップテンはクラス全体で決めてもよい。）例えば、下のようなものが出てくるだろう。

（イギリスのある小学校3年のクラスでは…）

私は50歳になっても、まだ笑っているかな
みんなとまだ友だちでいられるかな
お父さんやお母さんはどんなふうになっているかな
戦争は起こるだろうか
絶滅のおそれのある動物がどれくらい増えているかな
ジャングルは残っているかな
車はまだガソリンで動いているかな
鉛筆はまだ使われているかな

目次

〈特集〉「未来」は、自分たちの手で

事例1：未来について知りたいこと	1
事例2：新聞から未来が見える？	2
事例3：未来を予測する	3
事例4：これから生まれてくるひとたちの権利	4
事例5：もし、わたしがおとなだったら	6
事例6：すごろく「バラ色の未来」	6
事例7：未来の輪	7
事例8：身近な地域の政治と私たち〈実践報告〉	8
水平線まで見えますか？〈実践報告〉	9
どこへ行きたい？〈環境教育アクティビティー〉	10
カナダ西岸環境教育ツアー参加報告記	11
情報コーナー	12



3 <ペアで> 2人一組になる。2でできた「質問トップテン」の答えを見つけるために、話し合ったり調べたりする。図書室（館）で参考文献を調べたり、学校や家庭で他の人の意見を聞いてみたりしよう。

*多くの場合、子どもたちは、どの質問に対しても全員が納得できるような「正解」がないことに気づく。意見というのは人によって異なり、必ずしも明白な解答があるとはかぎらない。こうしたあいまいさを受け入れ、寛容に対処しなくてはならないことを理解する助けとなるだろう。

4 <全体で> ペアごとの結果をレポート（報告書）、絵、図、口頭発表の形で発表する。教室の壁に掲示したり冊誌にまとめたりしてもよい。

応用：

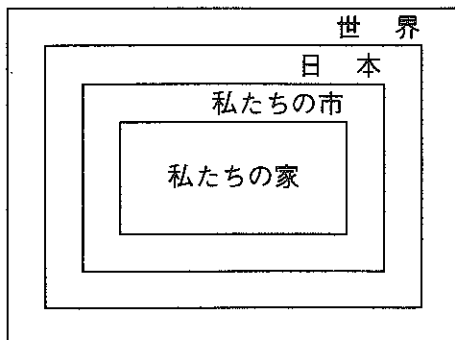
☆男女による違いに注目する。男女それぞれの質問の傾向を調べ、互いの関心や興味、気になることの違いを見つける。出身国（地）が異なるとどうか。

☆質問を、例えば未来の科学技術、環境など、特定のテーマに限定して考えてみてもよい。

【現場から一言】吉田先生 教育委員会指導主事

3年生社会科の始めの単元（花いっぱい運動や公民館・図書館活動など、町をよくするための人々がとりあげられている）の学習に使える。ただ、町の学習の後に予測を入れると、どうしても町の未来だけに絞った予測を子どもは出してくる。そうなると原案のスケールの大きさが失われてしまう。そこで、下に示すような紙を用意してはどうだろう。また、「知りたいこと」だけにせず、「なってほしい未来の姿」というまとめも可能だと思う。授業では、模造紙数枚をはりあわせて使い、一人ひとりのものを書き込むとよい。

<未来について知りたいこと>



事例 2：

新聞から未来がみえる？

ねらい：・未来の出来事の多くが現在の選択や意志決定に起因することに気づく。

・情報を分析し、現状を理解すると同時に未来の可能性を探る。

・様々な出来事が、時間的（過去・現在・未来）にも空間的（個人から地球まで）にも、互いに影響し合っている様を探る。

準備するもの：新聞

展開：

1 新聞に目を通し、未来の生活に関連がありそうな記事を集める（例えば、健康、食糧、人口、エネルギー資源、発明など）。

2 教室の壁の一部を「未来コーナー」とし、各自の集めた新聞記事を掲示する。

3 いくつかの記事について次の点を話し合う。

・この出来事は自分にどんな影響を及ぼすか

・自分の家族にどんな影響を及ぼすか。

・日本にどんな影響を及ぼすか。

・世界にどんな影響を及ぼすか。

・自分の子どもたちにどんな影響をもたらすか。

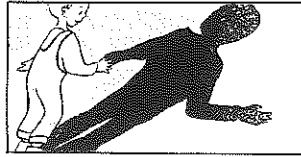
4 新聞記事をもとにして、その結果、思いがけないことに発展したという内容の創作文を書く。題名として、例えば「〇〇に起きたこと」「信じられない出来事」「1999年の大晦日」「古きよき時代1986年」など。

【現場から一言】吉田先生 教育委員会指導主事

新聞教育の材料としてふさわしいものです。社会科で扱う手もありますが、卒業文集（論文）作りと絡めて、国語（作文指導）の中で扱ってははどうでしょう。

未来に巣立っていく子どもたちに最高の贈り物ではないでしょうか。未来を予測する力をつけてやれる。取材能力をつけてやれる。子どもの夢と冷徹な目を育む、すばらしい実践になるのではないのでしょうか。

出典：UNDERSTANDING THE FUTURE, Peter McGregor, Primary Education Book,1986



事例 3 :

未来を予測する

ねらい：・未来にどうあってほしいか、実現のために自分には何ができるかを自覚する。

- ・望ましい未来像を明確にし、実現に必要な方法を探る。

展開：

- 1 各自でプリント（右表）に取り組む。
 - 2 みんなで次の問いについて話し合う。
- ①10の出来事の中で、あなたが最も実現してほしいことはどれですか。実現のためには、何が必要でしょうか。実現したら、どんな世界になると思いますか。
- ②10の出来事の中で、あなたが一番こうなってほしくないことはどれですか。そうさせないためには、何が必要ですか。実際そうなってしまったら、どんな世界になると思いますか。

【現場から一言】平井先生、小学校5年

子どもたちが予想以上に真剣に興味をもって取り組んでいたのが印象的だった。始める前は、質問自体に動きが無いのでどうかなと思っていただけ。10の項目のうち「望むこと」の圧倒的に多かったのが7。「緑が多くなってほしい」など自然への憧れでしょうか。最近、移動教室で軽井沢へ行き林業体験したことも影響しているかもしれません。反対に「望まないこと」の一番多かったのが4。子どもも、自分だけの事でなく、自然や人間の努力について真剣に考えているんですね。「先生の考えを聴きたい」という声も多いので、この後、話し合いをしようと思います。また、特に関心の高かった緑については、さらにふくらませて、緑を増やすために自分たちにできる行動や活動を考えたり実践したりしていく糸口として利用できるんじゃないかと考えてます。(談)

出典：NEW WAVE GEOGRAPHY 1, Geography Teachers' Association of Victoria, Jacaranda Press, 1988

プリント「未来を予測する」

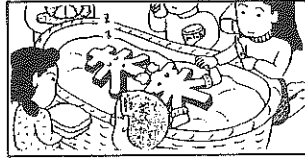
未来の出来事	そうなる		もしそうになったら		なぜそう思うのか
	と思う	とは思わない	望ましい	望ましくない	
1 あかちゃんが生まれる前に女か男か決められる					
2 学校がなくなって、コンピューターを使った自宅学習になる					
3 勉強ができるようになる薬が発明される					
4 身体の古くなったり怪我をしたりした部分を人工部品と取り替えられる					
5 石油などの代わりに太陽エネルギーが利用できる					
6 日本でも女性の首相や市長があたりまえになる					
7 日本の国立公園の面積が2倍になる					
8 アフリカの砂漠を緑化するために南極から大量の水を引っ張ってくる					
9 南北朝鮮が統一される					
10 現金の代わりにすべてカードになる					

実践報告 「私はどういう人でしょう」を授業参観で

(『WORLD STUDIES』p87) 山口先生 小学校4年
2人組になって、いろいろな質問をしながら相手を知り、次に、その人になったつもりで、他の人に話をするという活動。たくさんのお父さんお母さんの参加に子どもたちも大喜び。子どもになった気持ちはどうだったでしょう？ たまにはよいものではないでしょうか。

○子どもの感想から

- ・高荷さんになってなんだか新しい気持ちになった。
- ・長坂君のお父さんになりきるのはむずかしかった。ぼくとおじさんとぜんぜん好きなものがちがった。
- ・みっちゃんのお母さんになりました。「心配していること」とかいろんなことを知って、自分が本当にみっちゃんのお母さんになったみたいで楽しかったです。



事例 4 :

これから生まれてくるひとたちの権利

- ねらい：・現在が未来にどんな影響を及ぼすか、未来に対して自分たちにはどんな影響力があるかを考察する。
- ・次の世代の人々にも、自分たちと同じように生きるために最低限必要なものがあり、それを保障される権利があることを理解する。

展開：

- 「今から50年後の人間の生活がどんなふうになっているか、はっきりしたことはだれにもわかりません。でも、暮らしやすい生活のためには、これだけは絶対必要というものがあるよね。自分の子どもや孫の世代のことを考えてみよう。生きるためにはどんなものが必要な？ そのためにはどんな権利が必要かな？」
- 小グループに分かれ、次のことを話し合う。
 - 自分たちの前の世代の行為や行動は、現在の状況にどのように影響しているか？ 利点と問題点の両面（例えば、労働時間の短縮と水や大気汚染）について。
- 次のことについて、短い時間でできるだけたくさんの意見を出してみる（質より量が大事——ブレインストーミング、『WORLD STUDIES』P89参照）。
 - 自分たちの世代は、今までに、次の世代にどんな影響を及ぼしているか？ 肯定的な面、否定的な面の両方。
- 下の文を読んで各グループで話し合う。その後、全体で、これから生まれてくるひとたちのためにどんな権利が保障されるべきかを考える。

◇これから生まれてくるひとたちの権利

次の世代が、少なくとも、今のわたしたちの享受するのと同じ豊かさ（人の手になるものも、自然のままのもの）を確保できるようにすべきだというのはなぜか？ わたしたちには、次の世代に対する義務があり、自分たちが受け継いだ豊かさを余すところなく次の世代に引き継ぐことができなければ公正だとは言えないからだ、と言われている。そればかりでなく、どの世代も次の世

代に対する義務を果たしていれば、はるか先の世代のことを心配する必要など生じてこないはずなのだ。

5 次のようなことを考える。

- ・「人の手になる豊かさ」とは何か？

（答えの例：家、店、企業、工場、銀行、芸術、工芸品等、人間がつくったもので価値のあるものすべて）

- ・「自然の豊かさ」とは何か？

（答えの例：汚染されていない大気や水、多様な動植物、よく肥えた耕地、きれいな海岸、自然の保護されている田園、天然資源など）

- ・今起きていることで、次の世代の豊かさを減らす結果になりそうなこととしては、何があるか？

6 2040年の特定の集団の人々（例：小学6年生）に宛てて手紙を書く。

- ・その人たちの権利が確実に守られるように、1990年代の私たちはどんなことをしているか。
- ・1990年代の自分たちの生活はどんなふうか。
- ・その人たちの生活がどのような面で今より改善されているとよいと思うか。

出典：EXPLORING ALTERNATIVE FUTURES : A TEACHER'S INTERIM GUIDE, David Hicks, Global Futures Project, Institute of Education, University of London

【現場から一言】吉田先生 教育委員会指導主事

この授業案は、環境倫理学の考え方を授業化しようというまったく新しい試みです。独創性と先見性に驚かされました。環境倫理学の物の見方は、私もすばらしいと思いますし、出会ったときにはハッとさせられました。それは右上に示したように従来の思考回路AをBに変えた、いわばパラダイムの変換が行われていたからです。しかし、果たして今の状況で環境倫理学の柱の一つであるこの考え方「我々は次世代に責任を負うべきである」を前提として授業を組んでよいものでしょうか。それよりも私たちが「ハットしたこと」を子どもたちにも味わってもらい、それについてじっくり考えを深めていくという形に授業を組んではどうでしょう。つまり、この価



〈知識〉※

- ① 私たちは人間の生存に不可欠の水を汚している
- ② 私たちは人間の生存に不可欠の空気を汚している
- ③ 私たちは酸素を供給したり貯水の機能をもつ森林を破壊している
- ④ 私たちは化石エネルギー資源を消費し続け、しかも代替エネルギーをまだ発明していない

思考回路A

私たちの未来は楽観できない

私たちの未来や今の暮らしを守るため、資源問題、環境問題に取り組むべきである

〈価値〉

思考回路B

私たちのせいで、未来世代は滅びるか、私たちよりよい暮らしがなくなるかもしれない

私たちは未来世代に責任をもつべきである

〈価値〉

※例示です

値が絶対に正しいという前提に立ってそこからいろいろな物事を考えさせるというやり方をとらないで、そうした見方は正しいのだろうかということを、いろいろな事実と自分の価値観とに突き当らせながら、自分なりに考えさせていく授業構成をとりたいたいです。そこで次のような授業構成を考えてみました。

◇応用案

- 1 私たちの活動で、未来の世代を不利にしていることがありますか。(水、空気の汚れ、森林破壊などはすぐに出てくるだろう。エネルギーは、出てこなければ、教師から問いかけてみる。)
- 2 次の文(原案4で提示されているものに少し変更を加えて)を読んでみよう。
- 3 「この意見に賛成ですか、反対ですか。理由を付けてノートに書きなさい。」
「水や空気は、人間が生きていくために不可欠なものです。これをきれいな状態で次世代に引渡すことに反対という人はいないと思います。私たちの暮らしを豊かにしてくれているエネルギー、つまり石炭や石油で

すねーこれをそのまま次世代に引き継げないのは明らかですーこういうエネルギー問題について私たちは次の世代に対して責任を負うべきなのかどうかを、次の時間から検討しましょう。そして次に、アマゾンの森林を今のままで引き継ぐべきかどうかーなぜなら開発によって豊かになりたいという人たちがいるのですからーについても考えましょう。」

- 4 資料に基づいて(代替)エネルギー問題を検討する。
 - ・石炭や石油がなくなるのはわかっている。他のエネルギーへの切り替えをする必要が我々の世代にあるのか(なぜ、30年後ぐらいの次世代にまかせてはいけないのか)。
 - ・エネルギーの切り替えて、我々はどんな対応を迫られるのか。(例：自動車ー開発費、他国との競争力、新しい技術者の養成、工場設備の大幅な変更など)
- 5 アマゾンの森の開発・保存問題について資料に基づいて検討する。
- 6 「エネルギー、森林を未来の世代にどう引き継いでいけばよいでしょう。そのために何をしようと考えたか、2040年の人に手紙を書きなさい」



事例 5 :

もし、わたしがおとなだったら

ねらい：・自分の望ましいと思う大人の立場で、子どもに対して願うことを考える。
・立場を変えて、物事を見たり考えたり、未来の出来事を主体的に考えたりする。

展開：

- 1 各自でプリントに取り組む。
- 2 グループ（隣同士）で見せ合い、気づいたことや感じたことなどを話し合う。
- 3 全体で各グループの話し合いをまとめて発表する。

プリント

もし、あなたに自分の子どもがいたとしたら、

- 1 自分の子どもが高校生活を始めるにあたって、どんなアドバイスをしますか。3つ書きなさい。
- 2 あなたがさせてもらえないことで、自分の子どもにはさせてもよいと思うことを2つ書きなさい。
- 3 自分の子どもにこれだけはさせない（させてはいけない）と思うことを2つ書きなさい。
- 4 自分の子どもにこんなことは言わないと思うことを3つ書きなさい。

【現場から一言】尾立先生、中学英語

これはおもしろそうだわ！ 高校の家庭経営や倫理、中学の道徳、学活、国語など、応用範囲が広そう。できれば、全員の回答をプリントにまとめて配りたいわね。みんなの思いや考えは実に様々であるということが歴然とわかるんじゃないかな。保護者会を利用して親にも回答してもらって子どもたちと比較すれば、単に子どもの思いだけでなく、両方の立場からそれぞれの思いが明らかになって、いびつな親子関係にも対話の機会がつかれるのでは？ 英語の授業でもできますね。（談）

出典：ME YOU AND OTHERS, Elizabeth Callister, Noel Davis, Barbara Pope, Jacaranda Press, 1988

事例 6 :

すごろく「バラ色の未来」

ねらい：・未来を望ましい方向に実現させていくために何ができるかを主体的に考える。
・未来に対して創造的、肯定的な姿勢で臨む。
準備するもの：サイコロ1つ、コマを人数分、厚紙、カラーマーカーなど

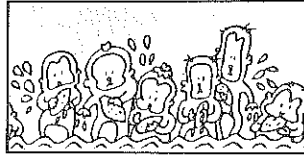
展開：

- 1 4～5人のグループに分かれる。すごろくの台紙をつくる（100マス）。スタートを「今年」、ゴールを「バラ色の未来」、5マスおきに「カード」（カードをとるマス）とする。
- 2 話し合いながらカードを作る（例を参照）。カードの内容によって、「6マス進む」「1マス進む」「3マス戻る」など差をつける。
- 3 〈ゲームの仕方〉順番にサイコロをふり、出た目の数だけ進む。ゴールに早く着いたほうが勝ち。

カードの例：

全市町村に廃棄物リサイクルセンターが設置される。
店で包装が行われなくなり、各自が容れ物を持参するようになる。
子どもたちがリサイクル推進ポスターをデザインする。
アルミニウムの価格が上がる。
郵便がパソコン通信に置き換えられる。
宣伝広告が全面禁止になる。
大気汚染の原因をつくる工場が閉鎖される。
効率のいい電気自動車が発明される。
友達が空き缶を溝に投げ捨てても見ないふりをする。
広大な森林地帯の宅地造成が許可される。
国連で、人間の健康と地球環境のために石炭燃料の全面禁止が必要だという調査結果が出る。

出典：UNDERSTANDING THE FUTURE, Peter McGregor, Primary Education Book, 1986



事例 7 :

未来の輪

ねらい：・一つの選択、流行、出来事から、様々な影響が及び、様々な結果が生じることを考察する。
・変化の過程を段階的に考え、未来への影響を予測する。

準備するもの：A3用紙、カラーマーカー、「未来の輪」の図（右参照、OHPか模造紙で）

展開：

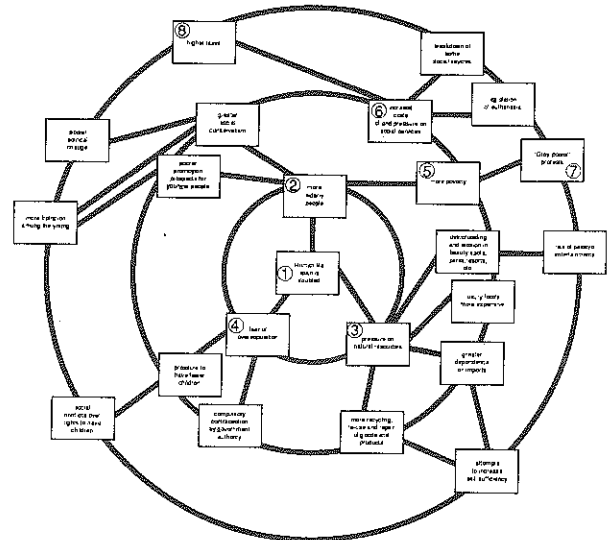
- 1 「未来の輪」の図を見せながら、一つのもの（こと）から様々な出来事が発生し得ること、また、時間の経過とともに、将来どのような結果に発展していく可能性があるかを説明する。
- 2 3～5人のグループに分れる。各グループで何について「輪」を書くか決める。現在起きていることがよい。個人の行為から世界的な現象まで、多岐にわたる（例えば、CDデッキを買う、地域内のゴミ捨て場設置計画、長寿化、第三世界向けのタバコ輸出など）。教師が予め決めておいた中から各自が選んでもよい。
- 3 2で決めたことを中心として4重に輪を書き、次のことを考える。
 - ・すぐに現われる影響は何か？ 輪の中に書き込む。
 - ・次に現われる影響は何か？ 輪の中に書き込み、前に書いた事柄で関係あるものと線で結ぶ。
 - ・同様にして、3番目、4番目の影響を考えて書き込む。
- 4 全体で、各グループが自分たちの作った「未来の輪」を見せながら説明する。
- 5 全体、あるいはグループで気づいたことについて話し合う。あるいは、各自で作文を書く。

応用：

「未来の輪」をつかって、クラスの中で、意見の対立などをきっかけに決めたこと（例えば、けんかをしない、いじめをしない、助け合う）が、どんなことにつながっていくかを考えるとよい。

出典：NEW WAVE GEOGRAPHY 1

未来の輪



例（上図の番号と照合）：

- ①寿命が倍の長さになる
- ②高齢者が増える
- ③資源への需要が増す
- ④人口過剰になる恐れ
- ⑤貧困の増大
- ⑥社会サービスの需要とコストの増大
- ⑦「シルバーパワー」の反乱
- ⑧税金が高くなる

解説：

未来に向けて計画を立てるとき、一つの変化からさまざまな影響が生じ得ることを忘れがちだ。例えば、ある自治体は、狭い道の混雑を、道路を広くすることで解消しようとするかもしれない。が、広い道路がより多くのドライバーを誘発してしまい、一層混雑した状況をつくりだす結果になるかもしれない点も、考慮に入れる必要がある。安易な決断が私たちの地域社会の未来のあり方に影響を与えることが少なくない。

「未来の輪」は、オーストラリアの大学でカリキュラム研究を専門とする教授が、変化の結果を予測する方法として考案したものである。



3 <ペアで> 2人一組になる。2でできた「質問トップテン」の答えを見つけるために、話し合ったり調べたりする。図書室（館）で参考文献を調べたり、学校や家庭で他の人の意見を聞いてみたりしよう。

*多くの場合、子どもたちは、どの質問に対しても全員が納得できるような「正解」がないことに気づく。意見というのは人によって異なり、必ずしも明白な解答があるとはかぎらない。こうしたあいまいさを受け入れ、寛容に対処しなくてはならないことを理解する助けとなるだろう。

4 <全体で> ペアごとの結果をレポート（報告書）、絵、図、口頭発表の形で発表する。教室の壁に掲示したり冊誌にまとめたりしてもよい。

応用：

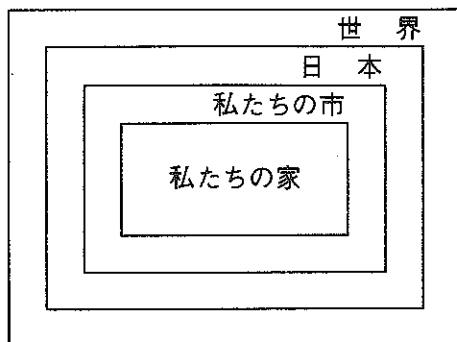
☆男女による違いに注目する。男女それぞれの質問の傾向を調べ、互いの関心や興味、気になることの違いを見つける。出身国（地）が異なるとどうか。

☆質問を、例えば未来の科学技術、環境など、特定のテーマに限定して考えてみてもよい。

【現場から一言】吉田先生 教育委員会指導主事

3年生社会科の始めの単元（花いっぱい運動や公民館・図書館活動など、町をよくするための人々がとりあげられている）の学習に使える。ただ、町の学習の後に予測を入れると、どうしても町の未来だけに絞った予測を子どもは出してくる。そうすると原案のスケールの大きさが失われてしまう。そこで、下に示すような紙を用意してはどうだろう。また、「知りたいこと」だけにせず、「なってほしい未来の姿」というまとめも可能だと思う。授業では、模造紙数枚をはりあわせて使い、一人ひとりのものを書き込むとよい。

<未来について知りたいこと>



事例 2：

新聞から未来がみえる？

ねらい：・未来の出来事の多くが現在の選択や意志決定に起因することに気づく。

・情報を分析し、現状を理解すると同時に未来の可能性を探る。

・様々な出来事が、時間的（過去・現在・未来）にも空間的（個人から地球まで）にも、互いに影響し合っている様を探る。

準備するもの：新聞

展開：

1 新聞に目を通し、未来の生活に関連がありそうな記事を集める（例えば、健康、食糧、人口、エネルギー資源、発明など）。

2 教室の壁の一部を「未来コーナー」とし、各自の集めた新聞記事を掲示する。

3 いくつかの記事について次の点を話し合う。

・この出来事は自分にどんな影響を及ぼすか

・自分の家族にどんな影響を及ぼすか。

・日本にどんな影響を及ぼすか。

・世界にどんな影響を及ぼすか。

・自分の子どもたちにどんな影響をもたらすか。

4 新聞記事をもとにして、その結果、思いがけないことに発展したという内容の創作文を書く。題名として、例えば「〇〇に起きたこと」「信じられない出来事」「1999年の大晦日」「古きよき時代1986年」など。

【現場から一言】吉田先生 教育委員会指導主事

新聞教育の材料としてふさわしいものです。社会科で扱う手もありますが、卒業文集（論文）作りと絡めて、国語（作文指導）の中で扱ってははどうでしょう。

未来に巣立っていく子どもたちに最高の贈り物ではないでしょうか。未来を予測する力をつけてやれる。取材能力をつけてやれる。子どもの夢と冷徹な目を育む、すばらしい実践になるのではないのでしょうか。

出典：UNDERSTANDING THE FUTURE, Peter McGregor, Primary Education Book,1986



実践報告

水平線まで見えますか？

狭山青年の家『現代青年講座 ME YOU AND OTHERS』
第4回・セッション2「未来創り」(91/3/3)

◇「わたしの未来」(ニュースレター3事例4、『WORLD STUDIES
学び方・教え方ハンドブック』p148)

「各自で、紙いっぱい大きく線を1本書いてください。」まず線の左端に自分の誕生日を書き込み、次に誕生から今日までの、自分にとって大きな意味をもつできごとを書き込む(好きな色を使って)。弟の誕生、初めての学校、おばあちゃんの病気、親友ができたこと、かわいがっていた犬が死んだこと、大好きな先生の転勤、初恋、受験、…部屋がだんだん静かになっていく。

でき上がったものを同じグループの人と見せ合う。家族のできごとに深い影響を受けている人、学校での出会いが大きかった人、できごとよりも自分の感じたことをよく覚えている人。書き方も、地味な色で揃える、たくさんの色で華やかに、と様々だ。かなりの人が「湾岸戦争」と書いている。高校生が、30代前半の社会人の話を一生懸命聴いている。社会人にとっても、高校生の視点は新鮮なようだ。

「今日という日は、未来の第1日目と考えることができます。線の先に、これからの自分を書き込んでください。」卒業、就職、結婚、死。できあがったら、また、グループで見せ合う。意外な人が意外なことを考えている。まだ高校生なのに孫の誕生を見届けてから死ぬという人も、まだ独身なのに子育てが終わってからの「妻との楽しい老後」をあれこれと設計している人もいる。過去を振り返ったときは地味な色づかいだった人も、今度は何色もつかって、楽しそうだ。

◇『バラ色の未来』を設計しよう

目を閉じた参加者に、講師が問かける。これから、すべてのことが全部いい方に変わるとしたら、百年後の世界はどうなっているだろうか？頭に描いてみてください。人は、町並みは、社会は、情報は、交通は、…？目を開けて、グループごとに想像したことを話し合い、紙に描いてもらう。

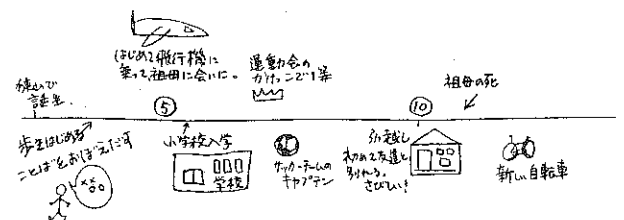
ところが、どのグループも苦しんでいる。「何も思いつかないんです」「そんなふうにはうまくいくはずないよ」「目を閉じると、核戦争の後のひびわれた地面しか見えない」など。講師は必死で対抗する。「すべてうまくいったら、が前提だから、こうなったらいいな、ということなら、うまくいきそうにないことでも何でもいいんです。核戦争は起きないとしたら、と考えてください。」励まし続けて30分後、漸く話し合いが進み始めた。

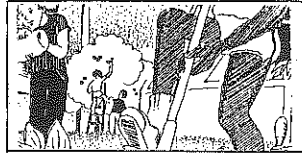
全体で発表。グループによって、働きすぎの問題、人種やことばの問題、ゴミの問題など、テーマは少しずつ違うが、全グループに共通していたのが「きれいな空気、きれいな水、身の回りの緑」に恵まれた環境で暮らすこと。夢としては、あまりに切実ではないか。

最後に、「魔法のマイクロフォン」で全員の感想を聴いた。未来を考えることが、一人一人の責任感にこんなにはっきりつながるものだと、講師も不覚にも知らなかった。それぞれ自分の言葉で心から語ってくれ、「青年の家」の主催者が思わず涙ぐんでしまうほどだった。

○参加者の感想アンケートより

- ・自分の過去をみつめてみることで、未来はきっとこうなるだろうと予測がつくとともに、未来は自分で勝ち取らなければならないのだと実感した。
- ・百年後を冷たく暗い社会としてしか想像できなかったことにより、何かしなくてはいけないと感じた。
- ・現在の自分、未来の自分、現在の自分の周囲、未来の自分の周囲は全て自分の責任のあること、自分の行動や選択の結果だということを認識。いつも冗談ばかり言っていた人が真面目に言った言葉の重みに、いいなあと感心しました。
- ・「無関心」ということが、人類の明るい未来を妨げてしまうのであろうと思いました。リサイクルの問題や、権利・義務の問題は、真剣に取り組んでいかねばならないなあと思います。





環境教育アクティビティー

どこへ行きたい？

ねらい：・環境問題を解決する人間を育てていくには、一定の価値観を押しつけるのは好ましくない。論争点を引き出したり、矛盾した事柄と対決させたりして、個人の新しい価値観を能動的に作り合うことが大切である。このプログラムでは、話し合うことにより、自分と他人との価値観の違いに気づくことができる。そして、価値観が変わっていくことこそ、環境をよりよくする真の行動につながっていくと考える。

対象：小学校高学年以上

所要時間：約1時間

準備するもの：グループごとに10枚の風景写真（自然、半自然、人工で、価値観の分かれそうな写真）

手順：

- ① まず6人ほどの小グループに分け、各グループに10枚の写真を配る。
- ② 「もし1週間の休みがあったら、あなたはどの場所に行きたいですか？」 行きたい順に①～⑩の順位をワークシートに記入する。
- ③ 次に、話し合いながらグループの①～⑩の順位を考え、ワークシートに記入する。
- ④ グループごとに、なぜそのような順位にしたかを発表し合う。
- ⑤ ふりかえりシートに記入する。

指導の留意点：

- ① グループの順位を出すところでは、充分時間をかけて話し合わせる。
- ② 多数決など少数数の意見が生かされないような方法はとらないように言う。

ワークシート「どこへ行きたい？」

写真	私								グループ
A									
B									
C									
D									
E									
F									
G									
H									
I									
J									

ふりかえりシート

今の実習を通じてのふりかえりを、次の文章を完成する形で行ってください。

◇私が書いたのは、

◇私がかかりしたのは、

◇私がうれしかったのは、

◇私が気づいたのは、

◇私が学んだのは、

◇私にとって必要だとわかったことは、

◇その他に気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは、

○環境教育のページについて

今号より毎号2ページを「環境教育のページ」として提供していただくことになりました。このページの編集は下の2名が行います。環境教育についての具体的な資料や情報をお寄せください。また、こんな事例や資料がほしいという注文もどしどしお願いします。読者のみなさんとのキャッチボールによってつくっていくページにしたいと思っています。

〈環境教育トレーナー研究会・教材開発チーム〉

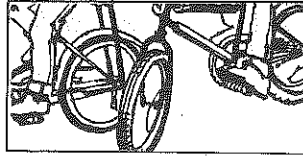
飯沼慶一（成城学園初等学校教諭）

森 良（YMCAアジア青少年センター職員）

連絡先 〒101 千代田区猿楽町2-5-5

YMCAアジア青少年センター

TEL 03-3233-0611 FAX -0633



カナダ西岸環境教育ツアー

成城学園初等学校 飯沼慶一

去る7月28日～8月15日、カナダのブリティッシュ・コロンビア（BC）州とアルバータ州で体験した様々な環境教育について報告します。

BC州の州都ビクトリアに、同行の高田先生と無事に到着。空港にはビクトリア大学に留学中の奈良産業大学助教授の井上先生が出迎えてくださった。

ビクトリアで最初に出くわしたのは、地元の子どもが「ジャンピング・ビーン（撥ねる豆）」と呼ぶ直径1ミリぐらいの粒。ナラの木の葉の裏についた虫えい（虫こぶ）が地面に落ちたものらしいが、何の力も加えないのにピンピン撥ね上がるのがなんとも奇妙…。

ビクトリアで一番おもしろかったのは、ビクトリア・インターナショナル・ディベロップメント・エデュケーション・アソシエーション（VIDEA）という民間の開発教育センター。大きく次の3つのことをやっている。
①ライブラリー：最新の資料を一般に開放 ②市民へのサービス：講師を呼んでの講演会等 ③教員に対する働きかけ：研修や研究に対応。今年はコロンブスのアメリカ大陸発見500年祭が大テーマで、「お祝い」か「抑圧の始まり」といった話題で話し合われるようだ。民間団体でありながら資金の40パーセントが国の国際開発局から出ていると聞いて驚いた。

次の日は気分を変えて、ビクトリア市が外郭団体をつくって運営している保護区域「スワン・レイク・クリスマス・ヒル・サンクチュアリ」に行ってみた。ここにある自然センターでは、訪問者が五感を使っていろいろな体験ができて飽きることがない。また、パソコンで域内の様々な情報を検索することもできる。このセンターは、設計から建築まで、画家・デザイナー・大工さん・自然科学者らと話し合いながら造り上げたという。

翌日、パシフィックリム国立公園へ向かう。バンジー・ジャンプ（足を括って跳ぶ）、サーモンフィッシング、オオカミウォオと遭遇したダイビング、ネイチャーツアーでトドウォッチングと自然を満喫。エルニーニョ（海水

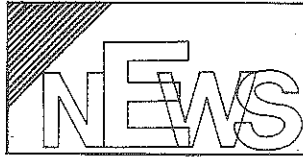
温の上昇）のお陰で、釣れないはずだったサバまでどっさり釣れた。地元の人が食べないので捨てられそうだったサバとイクラをもらい、アライグマの歩く海辺で火を起こし、「日本の文化っていいなあ」と、焼きサバとイクラ丼に舌鼓を打った。

旅の後半はカナディアンロッキーを訪れた。国立公園では、レンジャーが自然や歴史について解説してくれるガイドハイクや、キャンプ場の舞台を使った自然環境をテーマにしたシアタープログラムに参加。カナダの国立公園に普及している、自然のことを楽しく伝えて興味をもたせるプログラムのおもしろさを実感した。ただ一つ感じたことは、観光客の8割方が日本人であるにもかかわらず、こうした国立公園の自然を真に理解するようなプログラムに、ヨーロッパ人の参加者は割合いたが日本人の姿がまったく見られなかったことである。日本人の自然の楽しみ方はこれでいいのだろうか？

バンクーバーでは、まずグレーター・バンクーバー・リージョナル・ディストリクトという広域行政機構を訪問。学校で活用する「リサイクル」プログラムを作ってきたが、現在は、3R's（Recycleリサイクル、Reuse再利用、Reduce削減）のうち、より積極的な目標といえる「削減」のためのプログラムとして、カリキュラムや副読本などの作成などをすすめているようだ。

また、この州の電力会社では、80名ほどのスタッフが、州内の学校を対象に省エネ教育の普及に力を注いでいる。電気の消費が増え続けると、発電施設を新しく造らねばならなくなって経営上マイナスになるので、電気の使用量は増やさないようにしたいという。電気器具をガス器具に変えると電気会社から補助金が出るそうだ。パソコンを使ったシュミレーションゲームなども作って、各学校に無料で配っている。

今回の旅行は、カナダの活発な環境教育への取り組みに感動させられ、今後の自身の取り組みにも大いに参考になった。また、カナダにも政治と民間の間にある困難さなど、日本と同じ悩みがあることも知ることができた。「環境」はなかなか一筋縄ではいかないようである。



情報コーナー

○こんなことしています

〉ERIC研修ツアーの体験を英語教育に

「…広大な土地、国全体が平屋建てみたいな緑の溢れたオーストラリアで、環境教育のバイオニアのような学校が生まれているのは、不思議な気もしますが、納得もできます。他の大陸から孤立して生物が進化していったオーストラリアで、ヨーロッパからの入植者が入ってからの200年間に起こったことは、すべて現在の世界全体で起こっていることの象徴なのです。…動物や植物が生きられる地球を取り戻さないとはいけません。私には何ができるのか、と考えると英語教育の場で教材の中にこういうメッセージを入れていくことです。How to teachも大切ですが、What to teachを忘れないでいたいと、コアラちゃんやウォンバットちゃんに誓います」(「オープンクラス・ニュース」より抜粋)。児童英語教育に携わる立場から、国際英語教材展(10/24~25、お茶の水スクエア2~3階)にて次の講演を担当。

24日14時 GETTING KIDS TO TALK (ROOM1)

25日15時半BIG BOOKS FOR LITTLE LEARNERS (ROOM2) (各50分) この他にも70題のプレゼンテーションがあります(入場無料)。

発信：〒955三条市西大崎1-21-21-4
外山英語教室主宰 外山節子

○わたしはこうおもいます

〉『目で見る世界の動き①地球環境』

「PLT木と学ぼう」を手にして

見やすい地図と最新のデータに基づく解説は、今、巷に溢れている環境ものの中で群を抜いて利用価値が高いと思います。またPLTでは、カリキュラム・フレームワークが非常に示唆に富んでおり、多様な活動事例と共に日本の環境教育に大きな刺激を与えてくれそうです。

発信：大津和子
〒002 札幌市北区あいの里5-3
北海道教育大学分校社会科

○お知らせします

〉環境教育ビデオとガイドブック

子供のための環境教育ビデオ『未来への約束』と『小学校教員のための環境教育ガイドブック』を全国の学校及び団体に寄贈しています(団体の場合は地域の貸し出しキー・ステーションとなるのが条件)。希望者は、670円切手をはった角2サイズの封筒に、住所、学校、担当者名、電話番号を記入し、利用の計画を明記した手紙と共に下記にお送りください。

発信：〒163 東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル38階私書箱4004号
(社)日本ユネスコ協会連盟 環境教育係
TEL 03-3340-3921

〉開発教育ワークショップ「主体的に学ぶ開発教育を求めて」

海外の開発教育教材を参考に、「主体的に学ぶ」ための方法論に力点を置いた共同検討・作業を行います。教材の作成から模擬授業を通しての検討まで、情報交換、仲間作りに、多くの方の参加を期待しています。
とき 1992年11月21日~23日(2泊3日)
問い合わせ・申し込みは下記に。定員30名。
発信：大島芳雄 開発教育協議会事務局
〒169東京都新宿区西早稲田2-3-18-61
TEL 03-3207-8085

○資料のご寄贈ありがとうございました

『研修・訓練における成人指導の方法』
ウィリアム・A・ドレイブス著、(財)全日本社会教育連合会発行、1989年
『地球化時代の環境教育②学校の中での環境教育』国土社、1991年
『絶望こそが希望である』ジョアンナ・メイシー著、カタツムリ社、1992年
『国際理解教育指導資料1~3』『国際理解教育指導事例について』鈴鹿市立教育研究所

『湧 3~4』『湧』編集・発行委員会
『小学校教員のための環境教育ガイドブック』(社)日本ユネスコ協会連盟発行
ビデオ『未来への約束』WOMEN1000制作

○今、ERICでは…

〉環境教育研修プログラム

去る6月の環境教育研修会で紹介した、①単なる環境の意識化にとどまらない、問題解決能力なども含めた参加型学習法と②〈環境と開発〉をセットで学ぶ方法を、日本の実情にあった構成と内容に改善して、さらに広く普及していきたいと考えています。その手段の1つとして、『PLT 木と学ぼう』を中心とした研修会を隔月で開いていきます。次回の予定は下記のとおり。
「都会でできる環境教育」
日時：1992年12月6日(日)9:30~17:00
場所：ガールスカウト会館(東京都渋谷区)
対象：小学生以上
問い合わせ・申し込みはERICまで。

〉教材開発のための研究会

①中・高の社会科②道徳・人権・同和教育③幼児・小学低学年の協力やコミュニケーション④英語教育⑤環境教育などの教材開発を進めるための研究会をほぼ2ヵ月に1度の割合で開催していく予定です。これらのテーマに関心のある方、あるいは他のテーマで教材開発に関心のある方は、ぜひERICにお問い合わせください。

〉お詫びと訂正

①12号7ページの右中「八木京子先生」は「八代」の誤り②12号12ページ右中「わたしはこうおもいます」の中の「中学3年」は「高校3年」の誤りでした。訂正し、お詫び申し上げます。

○眠っている未使用切手などを送っていただければ大歓迎です。(編集担当)

ERIC International ERIC NEWSLETTER No.13 October 1992
国際理解教育・資料情報センター

〒144 東京都北区田端 1-21-18 津田ビル1F 電話= 03-5685-1177

このNewsletterの印刷・編集費用の一部は大竹財団からの後援です。

リサイクルを考えて、印刷用紙に再生紙を使用しています。